

JOMF 派遣医師便り (2016. 6)

◆ジャカルタ◆

チルボンへ (No.2)

JJC 医療相談室

伊藤 通敏

ガンビル駅の前売り券売場にて。

待てど暮らせど、なかなか順番がきません。

痺れを切らして、前に並んでいるインドネシア人に聞いてみると、順番券発券機の

反対側にある機械を指差し、ここの機械でも購入出来るような事を、

何となくインドネシア語で言っているようです。

物は試し、その機械に行き先&時間等を入れていくと、チケットが買えそうではないですか。

ところが、お金を入れて分かったのですが、この機械はお釣りが出ない、

即ち、必要金額をきっちり入れないといけないのです。

機械を入金途中のままにして、近くのコンビニに行き、お金を崩して、

また機械に戻り、残りのお金を入れて、やっと発券できたと思ったのですが、

そうは問屋が卸しません、その機械では、予約番号の印刷された紙が出てくるだけで、実際の電車のチケットではないのです。

電車のチケットは、駅構内の反対側にある機械に、その予約番号を打ち込んで、

プリントアウトされて、やっとのことで手に入るという事です。

あ～、何と手間暇のかかることでしょう。インドネシアらしいですな。

チルボン行きの当日です。

朝早くに起きて、タクシーでガンビル駅に向かい、チルボン特急電車に乗りこみます。

改札の際には、チケットと身分証明書が必要。

シートは、一応革張りです、また、リクライニングも装備、

何故だか、車両の前にはテレビがあり、インドネシアの番組が流れています。

関東の方には馴染みないかもしれませんが、関西の京阪特急と同じです。

電車は、ほぼ定刻通りにガンビル駅出発。

しばらくは、ジャカルタ市内のごみごみとした町並みの中を、

その後は、郊外の緑豊かな牧歌的な中を、電車は走ります。

車内販売はなく、食事の注文を取りにくる女性にオーダーすれば、

ナシゴレンなどが食べられるようです。約3時間で、チルボンに到着。

チルボンには、ジャカルタで、もうほとんど見られないベチャという、

前に人が乗れるようにした自転車が、数多く走っており、車も少なく、

高層ビルもなく、何となく落ち着いた町に思えます。

初日は、下見という事で、チルボン中心部から西に5kmにあるトゥルスミに、

アンコタという、ローカルバスに乗り向かいます。

トゥルスミは、バティックの工房や、ショップが 40 軒ほど集まるエリアで、週末には、ジャカルタから、ショッピングツアーが出るほどの人気がある所なのです。

[以下、続く]